



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)静岡トヨタ 貸井インター店	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.5 / 5		がんばろう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.5 / 5		がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 / 5		ふつう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1 / 5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			得点		2.5		
	<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁全面: サ行インク+ガラスウール断熱材+内壁 ②昼光利用設備には無い ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤緑地は確保されているが、生物資源の保存は無し。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型便器の採用。 ⑫木材の使用量は微小。 ⑬冷媒ガスはR410A→CPO=0。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭外壁、窓を通しての熱の損出を防止。 ⑮風向きの把握、緑地の確保。 	Q-1	2	2.1	2.1, 2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1, 3	②	昼光利用設備
				3.2	3.2, 1	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2, 1	④	躯体材料の耐用年数
				2.2, 2	2.2, 2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
				2.2, 3	2.2, 3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
				2.2, 4	2.2, 4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
				2.2, 5	2.2, 5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
				2.2, 6	2.2, 6	④	主要設備機器の更新必要間隔
			Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上		
	LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
		2		⑧	自然エネルギー利用率		
		3		⑨	設備システムの高効率化		
		4	4.1	⑩	モニタリング		
			4.2	⑩	運用管理体制		
	LR-2	1	1.1	⑪	節水		
			1.2	⑪	雨水利用システム導入の有無		
			1.2, 2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
		2	2.1	⑫	材料使用量の削減		
			2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用		
			2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
			2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
			2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材		
			2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
		3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用		
			3.2	⑬	消火剤		
			3.2, 2	⑬	断熱材		
			3.2, 3	⑬	冷媒		
	LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮		
		2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			得点		2.5		
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯県指針の適用、売場天井の耐震天井地下地の採用 	Q-2	2	2.1	2.1, 1	⑯	耐震性
					2.1, 2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4, 1	⑰	空調・換気設備
				2.4, 2	2.4, 2	⑰	給排水・衛生設備
				2.4, 3	2.4, 3	⑰	電気設備
				2.4, 4	2.4, 4	⑰	機械・配管支持方法
				2.4, 5	2.4, 5	⑰	通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			得点		3.5		
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法円滑化基準を満たしている。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑街並みに配慮し、緑地を確保した。 	Q-2	1	1.1	1.1, 3	⑱	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1, 1	⑲	階高のゆとり
					3.1, 2	⑲	空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1	⑳	地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			得点		2.1		
	<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内緑地の確保。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ⑮風向きの把握、緑地の確保。 	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出	
			2		⑥	まちなみ景観への配慮	
			3	3.2	⑦	敷地内温熱環境の向上	
		LR-2	2	2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
		LR-3	2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)静岡トヨタ袋井インター店	階数	地上2F
建設地	静岡県袋井市堀越字深田711-1、宇谷	構造	S造
用途地域	工業地域、	平均居住人員	24 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2021年7月31日
敷地面積	9,917 m ²	作成者	松井浩光
建築面積	2,461 m ²	確認日	2021年7月31日
延床面積	2,522 m ²	確認者	松井浩光



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR のスコア = 2.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 ①外周に緑地を確保し連熱環境の緩和を図る。 ②来客用及び従業員用駐車場を確保する。 ③外壁、窓をおして熱の進出を防止する。 ④節水型便器の採用による水資源保護。		その他 0
Q1 室内環境 ①空気質環境: 科学汚染物質対策一全てF☆☆☆☆を使用 ②温熱環境: 外皮性能[BPI _m]=1.02	Q2 サービス性能 ①機能性: ハリアフリー新法円滑基準満たす。 ②耐震性: 県指針の適用、信頼性: 非常用発電機設置	Q3 室外環境(敷地内) ①まちなみ・景観への配慮: 緑地の確保、袋井市景観計画対応 ②温熱環境の向上: 緑地の確保
LR1 エネルギー ①建物外皮熱負荷抑制: [BPI _m]=1.02 ②設備システムの高効率課: [BEI _m]=0.89	LR2 資源・マテリアル ①水資源保護: 節水型便器を採用	LR3 敷地外環境 ①地球温暖化への配慮: 外壁、窓を通しての熱の損出を防止 ②地球環境への配慮: 駐車場の確保、廃棄物の分別回収。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい